

未来構想シタター

一般社団法人未来構想会議

-Forum on Future Vision-

2024年2月9日号

〒100-6015 東京都千代田区霞が関三丁目2番5号
霞が関ビル15階 JWD内
電話：03 - 6625 - 0723/ FAX:03 - 6625 - 0724
E-mail: info@ffv.jp



1月30日第17回勉強会 「現下の政治状況について」

河村建夫会長より、政局混迷の時であり、これからの方向がどうなっているか先輩議員として心配している、とのあいさつに引き続き、山田憲資・時事通信解説委員より、現状とこれからどうなるかについてお話しする。派閥がなければ成

立しない岸田政権、派閥があると実現しない石破政権といえる。岸田内閣は菅内閣における派閥解消の流れがあった中で、派閥の論理で成立した。菅内閣が成立した時に次の総理として石破茂氏と岸田文雄氏の可能性を尋ねられたことがあったが、石破氏が0.1%ぐらい、岸田氏は0.01%ぐらいと答えていた。実際に岸田氏も自らが首班指名されるという現実的な感覚はなかっただろうと思われる。その岸田氏が総裁選に出馬した理由は、やはり林芳正氏とのかかわりが大きい。林氏は岸田氏にとって信頼できる友人であると同時にライバルでもある。3期下の林氏が総裁選に立候補することになれば岸田氏が総裁になる可能性はなくなるため、立候補したと考えられる。周辺も岸田氏が当選するとは思っていなかったため、今回はやめた方が良くと言っていたが、岸田氏は周辺の反対にもかかわらず出馬した。菅内閣で派閥解消の流れがあったが、菅氏の総裁選不出馬を受けた自民党総裁選の中で、結果としては派閥の力で岸田総裁が実現し、岸田内閣は成立した。

安倍派は自民党最大派閥であり、その協力ができなく政権運営ができないという現実があった。安倍派五人衆が将来の総理・総裁候補であることは衆目の一致するところであるが、安倍氏がまだ若かったこともあり、体調が回復すれば3度目を目指す可能性があり、安倍派(清和会)の後継を固めず、競わせる状態を作っていた。また麻生派も政権派閥と連携することでその力を発揮する部分があり、茂木派もその均衡の中にいた。

岸田内閣が国民の世論調査に基づく支持率が低いにもかかわらず、安定的であった理由は、このような派閥の均衡の中で支えられたという側面が強かった。派閥均衡から作り出された岸田内閣ではあったが、今回、派閥から議員個人への政治資金キックバックの不記載が明るみになり、改めて派閥問題が浮上し、政治と金の問題で内閣支持率が低下した。これに対して遠藤利明氏は、岸田氏に世論の支持を得るのは攻めた時だ、突破してやった方がいい、と述べた。つまり誰かが嫌がっても派閥解消ということに持っていく。これを受けて今回の結論として、派閥はなくす、つまり人と金は外すけど政策集団としては残るということになっている。その背景には岸田派の源流である宏池会は強い結束を保っており、形式的に派閥を解消しようとするまいと、一致して行動すると考えられることがある。

派閥解消に関し、事前に連絡をしなかったことが麻生氏の不快感を招いた。麻生太郎氏が上川陽子氏の名前を出したのは、自分の手の上に乗ってくれて、選挙も強く票の取れる政治家として上川氏がいることを示し、岸田氏しか選択の余地がないわけではないというポーズであったと考えられる。これからを考えると次の総裁選挙で可能性がある人としては、まず岸田氏の続投、続いて上川氏と石破氏が挙げられる。石



破氏に可能性があるとする党員を交えたフルスケールの総裁選を行うことが条件となる。最大派閥である安倍派は後継者が決まっていなかったことから、誰かが総裁候補として立てば安倍派が分裂する構造になっている。

解散総選挙日程に関してだが、来年の衆参同日選挙、もしくは今国会会期末、秋の自民党総裁選をにらんでということになる。それまでに景気動向が良くなり、政権支持率が上がった場合には、そのタイミングでという可能性もある。ここでは小池百合子・東京都知事の動静も気になることである。これに関しては東京都知事選挙日程が7月7日なので、今国会会期末解散ということになれば、小池氏が比較的早めに意思表示する必要が出てくる。しかしこれまでの2期の都政を通じて体制づくりをしてきていて、オール与党体制で都政を行いたいと思っているのではないか。次の選挙は、いつ選挙するかではなく、誰を顔として選挙をするかになるかもしれない。その意味では総選挙で自民党が過半数を割り込んで、野党系の首班指名候補が参入した場合には、自民党が割れ、細川政権成立時のような劇的な合従連衡が行われるかもしれない。

Q&A:

Q.富田茂之副理事長: 古賀誠さんは今回の決定を強く支持した。このことをどう考えるか？ 茂木さんは自分の派閥はしっかりしている、と述べたといわれるが、その背景はどのようなものか。また岸田政権の現状は超低空安定飛行の状態か？ **A. 山田恵資:** 古賀さんから見れば林さんが可愛い。林さんに良いことは古賀さんにも良い。麻生さんと岸田さんの関係が離れていくことは古賀さんにとって良いこと。その意味では古賀さんと麻生さんの関係でいえば、麻生さんとの決別の始まりになるかもしれない。茂木さんは派閥での基盤が弱いので自分の派閥向けのアピールだったし、自分の能力が高いと思って、自分の能力で乗り切れると考えていると思う。また政権の現状はそのようになっているが、岸田さんの性格からもあまり気に入っていないようである。 **Q.河村建夫会長:** 麻生さんはキャスティングボードを握ろうとしている。麻生さんがやったことに古賀さんが反応した。今回の派閥解消を古賀さんは評価した。岸田さんは大宏池会構想についてどう思っているのだろうか。 **A. 山田恵資:** 麻生さんは常に大宏池会構想だと思う。それに対して遠藤利明さんは小さいからこそポストが得られると大宏池会構想には反対している。ただ岸田さんは明言していない。政治的な必要性に基づいて考えているのではないか。 **Q.増子輝彦理事長:** 参議院は非常に衆議院を意識していて独立性を主張する。その意味で衆議院との違いがあると思うが、その辺についてはどう思うか。また補選についてはどうか？ **A. 山田恵資:** 参議院に関しては世耕さんの動きが焦点になる。また補選に関しては3つの選挙のうち2つには候補者を立てることができず、実際上は島根補選だけが判定基準になる。しかしあまりにも悪い負け方をすれば、選挙に勝てない岸田ということになりかねない。 **Q.伊藤庄平理事:** 自分が役人をしていたころは、法案を作り成立させるとき、政策課題があった場合には多くは派閥で議論をしてきた。派閥がなくなった場合にどのように政策形成していくのか。 **A. 山田恵資:** 政策ごとに同好会的なものや議連にもう少し派閥的なものを加味しながら政策形成をしていく方向性もある。逆にこれまで派閥の縛りで政策論争ができなかったという側面もある。いままでの派閥には人材発掘や養成の機能があった。それをどのようにしていくのが課題となるという問題意識は自民党の議員からも出ている。 **Q.増子輝彦理事長:** 派閥は復活するのではないか？ **A. 山田恵資:** 政治資金団体は残っているので資金メカニズムは残る。選挙の後で戻るのではないだろうか。 **Q.谷口久徳理事:** 今回の立件に関して検察は落とすどころがわかっていたのだろうか？ **A. 山田恵資:** 調整された様子はない。検察としては事前に入手した情報で検挙できると思っていたが、安倍派五人衆は一人も立件できなかった。今回の事案は、派閥の名前で集めた政治資金が不記載の形で議員に戻り、それが政治資金報告書に記載されていなかったことである。政府の公金を各政党に補助する政党助成金の創設から始まった政治資金規正法の趣旨は、“政治資金に対する不断の国民からの監視”、ということころにあり、時効のあるなしにかかわらず、その制度の趣旨が活かされていないことが最大の問題であったといえる。ただ派閥が若手の政治家の教育制度としての機能を果たしていたことは事実で、政治家になってからの抜擢や育成をどうしていくのが、今後の課題となる。最後に増子輝彦理事長より、お礼が述べられ閉会した。

河村建夫会長、富田茂之副理事長、増子輝彦理事長、伊藤庄平理事、谷口久徳理事、樽見英樹理事が出席。

未来構想会議ホットライン

(一社) 未来構想会議に対するご意見・ご要望をお寄せください

〒100-6015 東京都千代田区霞が関三丁目2番5号霞が関ビル 15階 JWD内

電話: 03-6625-0723/ FAX: 03-6625-0724

E-mail: info@ffv.jp <https://ffv.jp/>